

2021年度方針

2021年4月

公益財団法人 全日本ボウリング協会

会長 北川 薫

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、協会運営および事業遂行に大きな変更を余儀なくされました。大会の中止・延期はもとより、会員選手の日々の競技活動も制限を強いられ、ボウリング界にとって大変な危機でありました。そのような中、常にボウリングをするための方法を模索し実践する会員選手の姿に勇気をいただきました。その競技意欲に応えることこそ協会の使命であると再認識し、慎重かつ大胆に競技再開に向けて歩みだし、新年度を迎えます。

2021年度は、「ニューノーマル」を前提とした競技活動を展開してボウリングの魅力を発信し、人々がスポーツに求める価値を、ボウリングを通じて享受していただけるよう働きかけます。アスリートに向けては、コロナ禍においてもさらなる競技力向上を図る対策を実施いたします。

引き続きスポーツ界、ボウリング界はもちろん、他業界とも幅広く連携し、国内競技統括団体として日本ボウリング界が抱える課題の解決に邁進します。

1. 「ニューノーマル」と「世界進出」を前提とした日本ボウリング界の活性化

(1) 感染予防と競技活動の両立

- ・新型コロナウイルス感染症予防策ガイドラインを適用し、安全な競技活動の展開を推進する
- ・JBO（日本ボウリング機構）と連携し、ボウリングの安全性認知向上を図る

(2) 全国大会、地区大会への積極的な参加促進を図る

- ・web サイト、SNS を活用し大会の映像・情報を積極的に配信し、認知を向上させる
- ・参加意欲向上のためのキャンペーン等を実施する

(3) ボウリング場、業界との連携による「するスポーツ」新形態の開発

- ・拠点となる地域・ボウリング場と選手・クラブとの連携強化を図る
- ・競技者規程改定に伴いプロ・アマの競技交流を促進する

(4) IT、オンラインを活用した運営業務の改善と遠隔・多元同時イベントの開発

- ・全国的な競技活性化につながるオンラインイベントを開発する
- ・協会運営業務のIT化、講習会や会議等のオンライン化を推進する

2. 多様性に対応したボウラー受容体制の再構築

(1) あらゆる年齢・性別のボウラーを受け入れる

- ・ジュニア、シニア層を対象とした大会の内容を充実させる
- ・性別と部門に関し、多様な見地に基づき大会内容を設定する

(2) あらゆる競技レベルのボウラーを受け入れる

- ・アスリートボウラーが志向するトップクラス大会の権威・名誉を向上させる
- ・ビギナーボウラーのステップとなる大会を充実させる
- ・地域ボウラーの基盤としてのリーグ、競技会の活性化を図る

(3) パラボウリングの普及促進

- ・ JBO と連携し、パラアスリートボウラーの認知向上を図る
- ・ JBC 公認競技場におけるパラボウラーへの理解・支援を推進する

(4) フォロワー、サポーター獲得の推進

- ・ 競技を支援する人々を開拓し、競技の場を拡大させる
- ・ 選手を応援する人々に活躍を披露する方法を開発する

(5) ガバナンスにおける多様性の確保に取り組み、理念を浸透させる

- ・ ガバナンスコード遵守の実現に向け、多様な人材の発掘に取り組む
- ・ 理事会、専門委員会における意見交換を活発化させ、新たな提案を積極的に採用する

3. アスリートボウラーを頂点としたスポーツボウリングの普及強化

(1) 全日本ナショナルチームの組織改編と競技力向上

- ・ チームメンバー選考における年代区分、エリートボウラー創設によるチーム活性化を図る
- ・ 公式国際大会再開に向けてメダル獲得のための強化策を実施する
- ・ 海外トーナメント、ツアーへの挑戦を促進する制度と環境を充実させる
- ・ JBC アカデミックスタッフによる技術解析と強化策開発を推進する

(2) 次世代トップアスリートとなり得る選手の発掘育成

- ・ ジュニアジャパン選考会・選抜選手強化合宿においてアスリート意識と目標の向上を図る

(3) ボウリング指導者資格とメソッドの全国的な浸透を図る

- ・ 日本スポーツ協会公認ボウリングコーチ資格の取得を推進する
- ・ JBC・USBC コーチングマニュアルの普及促進とコーチ有資格者の知識・指導力を向上させる

この方針の実施にあたり、内閣府、総務省、文部科学省、スポーツ庁をはじめとする各省庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、独立行政法人日本スポーツ振興センター、一般財団法人地域活性化センター、ボウリング業界、特別協力各社との連携を密にし、役員はもとより会員の皆さんと共に方針の達成に邁進します。